

～日本胎盤臨床研究会会員と参加履歴のある先生方へお送りしています～

“よくわかる中医学の基礎” 実践セミナーのご案内

今回のセミナーは、中医学の基礎と、整形外科系、婦人科系、泌尿器科系、消化器科系、眼科系、耳鼻科系、皮膚科系、呼吸器科系それぞれの分野で、中医学をどのようにして臨床上展開していけばいいのか、実技もまじえて紹介いたします。全身療法などの統合医療に関心のある方、中医学を勉強したことはないけれど現在の臨床範囲を広げたい方は是非ご参加ください。またプラセンタの皮下・筋肉注射とつぼ注射の違いについて知りたい方やこれから始めたい方も是非ご参加ください。

【日 時】 2012年2月26日(日) 13時15分～16時45分 懇親会 17時～

【場 所】 東京ステーションコンファレンス (東京駅北口サピアタワー内)

【主 催】 日本胎盤臨床研究会 03-6206-2332 (平日 10時～16時)

【参加費】 専門会員 A、B 15,000円 同伴看護師 10,000円 (非会員医師 30,000円)
テキスト代込

【定 員】 30名

【演 者】 日本胎盤臨床研究会 理事長 吉祥寺クリニック 院長 長瀬 眞彦

現在日本で行われている東洋医学には2種類あり、一つは中医学でもう一つは日本漢方である。中医学は4000年以上の歴史の中で発展してきた医学で、陰陽五行説の思想を背景としている。一方日本漢方は主として漢の時代に日本に伝来した医学で、日本流にアレンジされた中医学の一つだ。もちろんだちらの医学も有効かつ有用で、演者は基本的に中医学を専門としている。

中医学の治療の中心は生薬と鍼灸治療で、心・肝・肺・脾・腎の五臓を気・血・水が潤滑に流れることで生命が営まれるとされ、生命活動の源となるエネルギーを気と呼び、全身の組織にエネルギーを供給するための経絡と呼ばれる気の流れるルートがあるとされている。

先人たちは気が順調にめぐってれば健康で、気がどこおれば病気になることに気付き、気の流れの乱れで生じた、気の余っている所と不足している所のバランスをとることが治療の基本になっている。このような考え方が基になり鍼灸治療は発展してきた。経絡の流れが悪くなっている場合に、そこを治療すると効果がある経絡上のポイントとして経穴 (=ツボ)が発見された。

以上のような中医学の基礎的な考え方をまずお話させていただいた後、主として経絡治療における中医学の考え方をベースにしたプラセンタの使い方までを今回は実践を交えて述べさせていただきます。

参加申込票 FAX : 03-3661-2250 (ご記入の上このままご返送ください)

氏名

施設名 (医療法人の場合は法人名も必ずご記入下さい)

連絡先

病医院

自宅

携帯

電話

FAX

住所